

# 万葉のカゲ

福井 陽加瑠

(国語国文学専修 国文学コース 村田ゼミ)

## 【目次】

- 1, 卒論スケジュール
  - 2, テーマ「カゲ」を選んだ理由
  - 3, 主な研究方法
  - 4, 研究概要
  - 5, 研究① 聴覚とカゲ
  - 6, 研究② 御カゲ .pt1
  - 7, 研究② 御カゲ .pt2
- 
-

# 卒論スケジュール

【3回生】  
『万葉集』  
などを学ぶ

【3回生  
春休み～  
4回生】  
先行研究調査  
& テーマ決め

【4回生  
4月～12月】  
卒論研究

【10月  
～1月上旬】  
論文を書く

【1月上旬】  
卒論の提出

# 研究テーマ「カゲ」 を選んだ理由

## ◎上代における多様な「カゲ」の意味

- ①光 ②姿 ③投影、水の上などにうつった姿
- ④実体のない姿、目に浮かぶ姿
- ⑤かげ、光線を遮って、物体の背後にできる薄暗い部分
- ⑥ものに覆い隠されて光の当たらない部分、ものかげ
- ⑦ものに覆われて、日光の直射や雨風を避ける建造物、御殿

**【考】カゲには光と、光を遮られた部分という、まったく相反する意味が同一の語形の中に共存しているが、その意味の分岐を考えるのは容易でない(『時代別国語大辞典』)**

## ◎『万葉集』の「カゲ」と複合語 …全78例(73首)

「朝カゲ」「朝日カゲ」「磯カゲ」「岩カゲ」「面カゲ」「(水) (夕) カゲ  
草」「カゲ面」「草カゲ」「島カゲ」「常カゲ」「玉カゲ」「夏カゲ」「日カ  
ゲ」「松カゲ」「御カゲ」「水カゲ」「山カゲ」「夕カゲ」

# 主な研究方法

## ① 「カゲ」を分類し、分布の傾向を調べる

例) 相聞歌・雑歌・挽歌や作者など

## ② 「カゲ」の用字の違いを調べる

例) 「影」と「景」、「陰」、「蔭」の用法の違い

## ③ 「カゲ」と共起することばを調べる

## ④ 複合語の「カゲ」を調べる

例) 「カゲ」と「面カゲ」の違い

## ⑤ 「カゲ」に関する先行研究を批判する

など

→注釈書などを参考にして調査した結果をExcelにまとめ、考察する

---

# 「カゲ」の研究概要

## ◎現代語訳の観点から「カゲ」を7つに分類

- ① 「光の遮られた領域(陰)」 (例) 「夏カゲ」 「島カゲ」 「常カゲ」
- ② 「光」 (例) 朝日カゲにほへる山に照る月の飽かざる君を山越しに置いて (四九五)
- ③ 「面影」
- ④ 「姿」 (例) ほととぎすこよ鳴き渡れ燈火を月夜になそへそのカゲも見む (四〇五四)
- ⑤ 「水面に映った姿(投影)」
- ⑥ 草の種類を表す一部      ⑦ 枕詞のカゲ

- ・ 何かに依拠したものであり、手に取り難い
- ・ 実在するとは限らない
  - …想像上のもの、存在を感じさせるものもある

# 研究① 聴覚とカゲ

◎ 「動物の鳴き声」と「カゲ」が共起する用例が11例

(例)

- 吉野なる 夏実の川の 川淀に 鴨そ鳴くなる 山カゲにして  
(3・三七五)
- 今よりは 秋付きぬらし あしひきの 山松カゲに ひぐらし鳴きぬ (15・三六五五)
- 春の野に 霞たなびき うら悲し この夕カゲに うぐひす鳴くも (19・四二九〇)

- 動物の鳴き声(音)のする空間 = 「カゲ」
- 聴覚(音)から連想される「カゲ」の可能性

# 研究② 御カゲ.pt1

## ◎ 「御カゲ」 の用例は2例(1首)

～高知るや 天の御カゲ 天知るや 日の御カゲの～ (1・五二)

## ◎ 従来 of 解釈 (例)

カゲには、直射日光や雨などを避けるために頭上にかざすものの意があり、ここは壮大な宮殿の屋根をさす(『新編全集』)

- ・ 『万葉集』には、「光が遮られた領域(陰)」の意味のカゲはあっても、「光を遮るもの」をカゲという用例は見当たらない
- ・ 「屋根」は形があり立体物である点で、「手に取り難い」というカゲの性質と一致しない

# 研究② 御カゲ.pt2

◎ 『万葉集』 と同時代と思われる

「祝詞（儀式などで神に捧げられることば）」  
（『延喜式』所収）に「御カゲ」が8例

→ 「御カゲ」は…

- ①宮を讃えた文脈、強いて言えば祝詞という「神を賞賛する」文脈の中で、「御」という尊敬語の付くことば
- ②「天の」・「日の」によってのみ修飾される

◎ 「カゲ」は「光・太陽光の及ぶ範囲」の意味をもつ

- ・ 「御」 + 「光」を意味する「カゲ」 = 「太陽神/天照大神」
- ・ 「御カゲ」は「天照大神が奉られ、その力(光)が及ぶ領域」を意味する（結果的に「宮殿」と現代語訳できる）